

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100042		
法人名	医療法人社団 仁智会		
事業所名	グループホーム 駅西		
所在地	石川県金沢市駅西新町2-12-1		
自己評価作成日	令和5年3月16日	評価結果市町村受理日	令和5年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和5年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道沿いですが、事業所の周囲は閑静な雰囲気です。目前には児童公園があり、近隣の方と自然とふれ合う機会もあるなど環境に恵まれています。  
利用者一人ひとりが自分のペースを大切に生活と安全に配慮しながらも自由な外出の支援に取り組んでいます。  
利用者・職員・家族の方が、共に支え合い感情豊かな生活を過ごせるような支援に努めています。地域の一人として地域行事やに参加させて頂いております。  
中庭には小さな家庭菜園があり収穫等や景観・季節感を楽しんで頂いています。  
母体である金沢春日クリニックの主治医・看護師に医療面のサポートを受けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ以降地域との交流は困難な状況になっているが、食材の買い出し等には職員が近くのお店やスーパーに出かけている。地域の盆踊りのお誘いがあったが、コロナ感染防止の観点で参加を取りやめている。グループホーム前の公園へ散歩に出かけたり、駐車場で夕食後に花火やシャボン玉を楽しんだり、少しずつ建物の外に出る活動を増やし始めている。  
コロナの感染状況を見ながら、昨年は1、2階合同のクリスマス会で食事を楽しめた。各ユニット2人程度は食器拭き等を手伝ってくれる利用者がある。季節を感じられるよう行事食を工夫して食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人の理念を元に事業所独自の理念「自然な笑顔と元気な身体で安心して暮せる家」を掲げ、共有し実践している	法人全体の医療と介護に関する理念をふまえて、事業所では「互いに助け合いながら共に生きる家」を理念として事業所内に掲示している。管理者は、日々の業務の中で、また全体ミーティングやユニット毎のミーティング、申し送りの場面で理念について伝えている。新人職員が入った時にはオリエンテーション時に必ず理念についての話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は、コロナ禍という状況の中積極的取り組みがおこなわれていない	コロナ以降地域との交流は困難な状況になっているが、食材の買い出し等には近くのお店やスーパーに出かけている。地域の盆踊りのお誘いがあったが、コロナ感染防止の観点で参加を取りやめている。グループホーム前の公園へ散歩に出かけたり、駐車場で夕食後に花火やシャボン玉を楽しんだり、少しずつ建物の外に出る活動を増やし始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は、コロナ禍という状況の中積極的取り組みがおこなわれていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は、運営推進会議を開催しておらず取り組みが活かされていない	今年度はコロナ感染防止の観点で書面による開催で行っている。花火大会やクリスマス等行事の様子、災害対策、備蓄品の確認、消防訓練(夜間想定を含む)等の検討結果を書面で「駅西便り」とともに郵送・報告している。送付先は家族、地域住民代表、民生委員、金沢市、地域包括、消防署等となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分に情報提供を行なっているは言えない	金沢市との連絡は、利用者の介護保険更新手続き等の事務的な連絡が主である。今年度の集団指導の資料は法人本部から資料が送られてきて、グループホームでは確認して返送している。昨年8月には、病院受診時にコロナ感染が疑われた利用者がいて事故報告書を提出している。「駅西便り」が出来た時には介護保険課にも送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の設置及開催。施設な研修(勉強会)を通じて職員に周知徹底とケアの実践を行っている	「身体拘束排除に関するマニュアル」があり身体拘束適正化のための委員会を3カ月ごとに開催して身体拘束をしないケアに努めている。委員会では日常的ケアの疑問点、ベッド柵の使用方法について、スピーチロック、委員会の運営法について等が話し合われていることを記録で確認した。内部研修も同日開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。建物の施錠は夜間、防犯上の観点で実施している。転倒防止のためにセンサーを活用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送り、定期的なミーティングの場においても職員間で話し合いお互いに確認する事で虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修等で学ぶ機会をもっており、制度を利用したい家族には活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には利用者や家族の不安や疑問等を確認させて頂き、十分な説明を行い理解・納得を頂いたうえで契約等を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には日々の生活状況の中から要望、不満、苦情を職員を読み取り対応している	コロナ以降「いつでも家族に来てもらい、ゆっくりと職員がお話をさせてもらう時間が持たなくなっている。」と管理者から聞かされた。ただ制限はあるが、事務所で利用者との面会は始めているので職員はその時に家族の要望や意見の聴取をしている。家族アンケートの実施や、便りが出来た時には送付したり、架電したりし情報交換している。苦情の体制は重要事項説明書で周知しているが、特に苦情は寄せられていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は他職員と同様の勤務シフトのなか職員の意見・提案・不満・苦情を聞く機会が自然と設けられる環境下にある。またリーダーからの情報やミーティング等から運営に反映・改善できるように取り組んでいる	管理者はリーダーからの情報や各ミーティング等で職員の意見や提案を把握する他、職員と同じシフト勤務をしており業務の中でも職員意見に耳を傾けている。法人のグループホームの責任者もグループホームへ巡回して職員と話し合い、提案を受け運営に反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、就業規則を明確に提示、給与制度の見直し改善を図る等職場環境・条件の整備に努めている。しかし、職員退職後の人員補充が円滑に進まず職員負担の増大がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は内外の研修に取り組んでいない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は母体の法人内での交流やグループホーム部会や外部主催の訪問研修等も取り組んでいない		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍により入居前の面談する機会が制限された中でも法人相談員からの情報収集等を行い、不安や要望等を十分に把握して本人との信頼関係を築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時及びサービス導入時に家族と面談を持ち、家族の考えや要望・不安等を十分に理解したうえで信頼関係を築きあげるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人と家族が本当にグループホームでのサービス提供が妥当かどうか見極めた上でサービス利用としている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍前は職員は入居者と共に日々の献立を考えたり、食事の準備や片づけ等、居室や共用スペースの清掃等一緒に行う事で共に支え合う関係を築いていたが現在職員の一方向的介護になりがちである		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において面会制限もあり共に支え合う関係作りは難しいも家族に認知症や身体機能低下が進行していく本人への対応をや助言を行い不安軽減等に努め信頼関係を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会が制限される中感染症対策を踏まえこれまでの関係が途切れないような支援をしている	以前は窓越しに面会をしていたが、窓越しでは十分な会話やふれあいができなかったため、感染が落ち着いてきてからは事務所で感染対策をとって面会をしてもらっている。ただ、通院は家族送迎で行ってもらっているためその時に直接に逢うこともできる。コロナ以降家族とのふれあいの頻度が減っていることや外出ができないことなどから認知症の進行が早まっている様に管理者は感じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂席や共用スペースでは利用者の個性を尊重、同士の相性等を優先した配置を行う事で自然と関わり合え、お互い支え合う環境が出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除(退居)後も必要に応じて相談や支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの趣味や特技を生かせるような生活になるようつとめている小さな表情の変化や普段と違う行動等のサインを読み取り対応	分かり易く、端的な表現の言葉がけに注意し、利用者が不安を感じないようにちょっと手を握ったり、スキンシップを図り混乱しないように安心なかかわりを心がけている。自分の思いを言葉にできないことがあるので、利用者のアクションの意味するところを的確に把握して対応をしている。例えば、トイレに行きたいという言葉が出てこないのに、時間やタイミング等を見極めてさりげなく誘導して不穏な状態を作らないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境、馴染みの暮らし方等を本人から自然に引き出したり、家族の方からも本人の生活歴等を面会時等を通して情報収集に努める事で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の朝夕の申し送りや定期的なミーティングやカンファレンスの場を通じて常に一人ひとりの現状を常に把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見や思いを反映させ、ケアマネ・計画作成担当者が中心となりユニットミーティング時にカンファレンス・モニタリングを行う事で現状に則した介護計画を作成している	ケアマネジャーがアセスメントを行い計画作成担当者が原案を作成し、サービス担当者会議を経てプランを周知している。モニタリングは計画2表の短期目標について3カ月をめぐりに行い、大きな変化がない場合にも12カ月で計画を更新している。変化があればその都度、更新を行っている。記録は計画2表のサービス番号を記して行い、計画との整合性をとっている。この他バイタルや食事、水分等の記録、看護や医療の記録も整備している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記録に記入する事で職員間の情報共有を図り介護計画見直しに活かしているが、気づきや工夫の記録と実践への反映という面においては十分とは言えない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて他科受診のサポートや早期退院への支援に取り組んでいる。時々の状況・状態に応じた柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組みに努めたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地区のお年寄りサロンに参加したりしていたが、今年度も参加しておらず地域資源との協働が十分ではない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、本人・家族にかかりつけ医の希望や確認を取り、適切な医療を受けられるように支援している。同法人医師が主治医の場合は医療情報が共有できる体制となっている	系列のクリニックが主治医となっていて、月に二回往診してくれている。そのため職員は直接医師に報告したり、指示を受けて利用者が確実に医療を受けられるような体制になっている。クリニックには訪問看護ステーションもあり、訪問看護の利用やオンコール体制により、手厚い医療体制となっている。他科を受診する場合には、主治医が紹介状を書いてくれて職員が受診支援をしている。歯科は往診してくれる医師を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併任の看護師へ情報や気づきを看護師連絡表記入し情報の共有を行っている。24時間看護師と相談できる体制が整っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期退院ができるように情報交換や相談に努めている。病院側とのカンファレンス実施等		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合の説明を行い了承を頂いているも、状態の変化に応じて家族と相談・決定を行なっている。同法人クリニックや老健施設への転院等も行っている	現在要介護5の利用者も一人いる。食事は刻み食、ミキサー食等も対応している。入浴は2人介助で行ったり、清拭対応もしている。グループホームでの生活の一つの目安を「食物の経口摂取」としており、それが難しくなってきたときには介護保険施設等への移行について家族と相談してスムーズに移行できるように支援している。今年2月に看取り事例があり、家族に対し医師からの説明、管理者からグループホームでの看取りについての説明を行い同意をもらい実施している。看取りに際しては、ユニットでグループホームでの看取りについての課題を再確認して看取りケアを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ職員全員が救命講習等を受け実践力を身につけている		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応マニュアルや体制は整備されている	「救急資料」(緊急時対応や応急手当講習テキスト等)、「離設リスク者対応マニュアル」等がありミーティングや申し送り等で周知している。マニュアルの見直しは今年行う予定である。離設リスクのある方には本人のサインや状況を見て対応しているが、どうしても危険な時には家族了承を得て施設も検討している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関が同法人であり、月2回主治医が訪問診察で来設している等バックアップ機関の支援体制が確保されている	協力医療機関は同じ法人のクリニックで、訪問診療が月2回あり、医療連携加算を算定している。看護師は月5回程度は来ており24時間オンコール体制である。訪問診療や看護師の来設時は職員が同行し「往診記録」や「看護師来設記録」等の記録がある。バックアップ機関は同法人の老人保健施設で以前は行事等を通じての交流もあったが、現在はコロナウイルス感染予防のため行われておらず、入所相談等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット1名の夜勤体制及び緊急時は職員が対応するマニュアルが整備されている	各ユニット1人の夜勤体制で防犯上19時から翌朝9時までは施錠している。体調不良の利用者がいればなるべく日中早めに同一法人の看護師に繋げるが、24時間オンコール体制なので必要時は連絡し主治医に相談し、指示を仰ぐことができる。夜間常も同様に相談ができる。救急搬送の時は管理者か介護支援専門員に連絡する体制となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルや防災備品は整備や定期的な避難訓練の実施されている。地域との協力体制が不十分	コロナ流行前には地域の避難訓練に参加していたがここ数年その避難訓練自体が中止になっている。「消防訓練報告書」で令和5年1月23日に(コロナ感染予防のため地域住民の参加は無し)利用者と職員で防災訓練を実施したことが確認できた。設備点検は業者が年2回行い、自主点検は「自主点検表」に基づいて年4回実施している。非常用食料・備品等が準備されている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	利用者の安全確保のため法人との協力体制はある	「災害対策マニュアル」が作成され、防災訓練の前に計画を回覧し、訓練後の振り返りもミーティングや申し送り等で周知されている。「防災備品管理表」により、食料や薬、防災用品を備蓄し定期的に食材などはローリングストックして管理を行っている。	「グループホーム駅西 災害対策マニュアル」の見直しは行われていない。マニュアルの定期的な見直しが見られる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間のミーティング等の場においても利用者の人格や尊重に配慮した言葉かけや対応について十分に話し合っている。特に排泄や入浴の場面において入居当初はできるだけ同性対応にて配慮を行っている。また言葉かけや対応に関しては個々のタイミングや言葉使いを常に注意している	管理者は「業務マニュアル」「認知症マニュアル」に添って、利用者のプライバシーに配慮し人権意識を持ち支援できるよう機会を捉えて職員に伝え、話し合っている。特に排泄や入浴においては入居後しばらくはなるべく同性介助し、不安を軽減できるよう配慮している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で利用者一人ひとりが自らの思いを言えたり自己決定できるような声かけや働きかけをしている。選択できる場面においては常に働きかけている		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態やペースに合わせた入浴や食事等の提供を行なっている。日々の生活を本人の希望に沿って過ごせるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣替えをサポートし過度の重ね着にならないよう調整し、その人の好みによって服が選べるよう支援している。外出時等は特に注意している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者と職員が同じ時間、同じ場所で同じ食事を摂り、盛り付けや片付けを行っている。季節の食材や好みの食材を常に取り入れている	コロナ感染予防のため外食や買い物に利用者と職員が一緒に行くことは中止している。流行状況を見ながら昨年は1、2階合同のクリスマス会で食事を楽しめた。各ユニット2人程度は食器拭き等を手伝ってくれる利用者がある。季節を感じられるよう行事食を工夫して食事を楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分摂取を嫌がる利用者にはお茶、ジュース等本人の嗜好に合わせた提供を行う事で脱水症状等の予防対策を行っている。嚥下機能低下の状態に合わせてキザミやトロミを加えながらも彩りや食欲を損なわない食事の提供に心がけている		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアの声かけ見守り、サポートを行なっている。義歯利用者には洗浄後消毒等の際、認知症による混乱を最小限に抑えつつ清潔保持に努めている		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表等を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけや誘導で排泄の失敗を軽減し、紙パンツ等を使用する際も家族の意向や職員間で話し合い排泄の自立を維持できるよう支援している	「業務マニュアル」に沿って排泄チェック表に記録している。誘導が必要な方のタイミングは一人ひとりの動きやしぐさ等も含めて排泄パターンを把握し、そっと声かけし失敗の軽減に努めている。紙おむつやパッドを使用する時も、申し送りやモニタリング、担当者会議等を通じて常に見直しをし、大きさを変えられないか等職員は自立支援について検討をしている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分や野菜等食物繊維の摂取を心がけ、便秘状態に応じて下剤の使用等を調整している。一人ひとりの排泄サイクルを把握し便秘の予防に努めている。毎日ヨーグルト(個人用)を摂られている利用者もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	認知症及び加齢による重度化が進行している利用者の方は職員本位の入浴支援になるも1週間に2回ほどの入浴を無理強いする事なく支援している。利用者によっては同性職員対応等不快・不満にならないよう対応している	「業務マニュアル」に沿って週2回入浴している。認知症で混乱する方が安心して入浴できる方法を職員は心がけ、入浴を嫌がる方にはあえて「お風呂」という言葉を使わず声かけをすることもある。入居間もない方には少しでも安心してもらえるよう同性介助をしている。寒がる方には脱衣場の暖房を強くし、ぬるい湯が好きなお方には温度調整する等好みに合わせ配慮している。季節を感じてもらうためにゆず湯も実施している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息等は状態に応じて居室での静養を支援している。気候や本人の体感に合わせた室温調整を行うことで快眠に努めている		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用をほぼ把握しており、利用者全員を服薬チェック表で誤薬等不備が無いよう注意している。認知症等本人の状態に合わせた服薬の支援を行っている		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で張り合いや喜びが持てるように一人ひとりの生活歴や残存能力を活かした家事仕事等役割の提供。カルタや習字等の楽しみごとや体操やレクリエーションによる気分転換等の支援をしている		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度はコロナ禍により日常的な外出を控えている	コロナ感染予防のために以前行っていた外出や家族との面会等も制限あり、利用者の希望に沿った外出はできていない。ここ一年では感染が少し落ち着いた時に家族と通院と外食した利用者がいたのみである。家族面会も現在は玄関で感染対策をして距離を取っている。向かいの公園に車いすも可能な園路があり、散歩は再開している。玄関先のベンチでは日向ぼっこができ、ベンチの周りに花のプランターを置いて季節を感じてもらえるよう配慮している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により外出の制限が直接にお金の使用が困難である。基本的に所持金はホーム側で管理させて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族や大切な人に自由に電話をしたり手紙(年賀状等)が出せるように支援している。携帯電話を持ち込まれて利用している方もいる		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は生活感や季節感を取り入れる雰囲気づくりに取り組んでおり不快な刺激や混乱をまねかないように環境整備に配慮している。共用スペース壁面には毎月季節感表した装飾を施している	季節の雰囲気がフロアに表れるよう利用者と職員で壁等の装飾を作って飾っている。今日が何日か確認できるよう日めくりカレンダーを設置している。寒がりの方が多く換気時はすぐに窓を閉めてほしいと言われてしまうが、コロナウイルス感染予防に配慮している。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍で利用者同士の距離間に配慮しながらもフロア内には自分の定位置が確立されており、利用者同士が自然に誘いあって自由にくつろぎながら談話し過ごされている		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだ家具を居室に置き家族の写真や花を飾ったりして少しでも本人が居心地よく過ごせるように環境を整えている。時計やカレンダー設置にて季節や日時の明確化を行い混乱の予防を図る。テレビ等電化製品も設置している	備品の家具以外家から持ってきたタンスやラジオ等が置かれ家族写真や自作手芸品等を飾っている。業務マニュアルに沿って掃除は毎日、シーツ交換は週1回、寝具交換は半年毎に行ない清潔を保持している。転倒予防のため家具配置も見直し安全や居心地に配慮している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室などに手すり等の設置で一人ひとりの身体機能を活かして安全かつ自由に自立した暮らしができるように工夫している。居室のベット位置等一人ひとりに合わせながらも安全に配慮した配置となっている		